

## HAKODATEコンシェルジュ養成プログラム 科目概要

### ③ 地域と異文化

北海道教育大学函館校  
准教授 森谷 康文

#### 1. 活動概要

「地域と異文化」は、外国人労働者をはじめ、日本社会における「多文化」の観点から、地域社会の状況と課題の理解を深めることを目的としており、HAKODATEコンシェルジュ養成プログラムの選択必修科目の一つとして開講されてきた。

2020年度においては、地域社会の「多文化」状況を把握するために、東京都新宿区大久保地域や兵庫県神戸市長田区といった全国でも特徴的な地域をとりあげたが、今年度は地元北海道に焦点をあて6名のゲストスピーカーをむかえ、下記のような構成で実施した。

#### 2. 授業内容

	授業テーマ	講師・ゲストスピーカー
1	オリエンテーション： 日本の多文化共生とは何か、在留外国人の推移	森谷康文（北海道教育大学）
2	地域とは何か、異文化の「文化」とは何か	森谷康文（北海道教育大学）
3	コミュニティをどう捉えるか エスニックタウンの形成から	森谷康文（北海道教育大学）
4	外国人介護士の受け入れと地域社会	中村久子（七飯町はっぴー共生型施設代表取締役）
5	高齢化社会と異文化 異文化による介護・異文化への介護	森谷康文（北海道教育大学）
6	倶知安町の国際リゾート産業の現状と課題	沼田尚也（倶知安町観光課観光係係長）
7	移民の定住における宗教の役割と宗教施設の機能	西千津 （カトリック札幌教区難民移住移動者委員会担当）
8	北海道における 外国人技能実習生の受入状況と地域の課題 ～農業分野を中心に	宮入隆（北海学園大学経済学部地域経済学科教授）
9	在日コリアンに関する基礎知識	森谷康文（北海道教育大学）
10	在日コリアンと地域社会	林炳澤（さっぽろ自由学校「遊」共同代表） 森谷康文（北海道教育大学）
11	定住外国人と子どもの教育編入様式と地域社会資源による補完	森谷康文（北海道教育大学）
12	外国人児童の学校教育 「編入様式」の理解と社会資源による補完	森谷康文（北海道教育大学）
13	アイヌ民族と地域社会	北原モコットゥナシ （北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授）
14	エスニックビジネスと地域社会	森谷康文（北海道教育大学）
15	全体のふりかえり	森谷康文（北海道教育大学）



授業では、総人口に占める高齢者の割合が全国平均よりも高く、その上昇が速くすすむ北海道における介護施設での外国人介護士受け入れについて、介護施設の代表者に加え、実際に働く外国人技能実習生を招いたほか、北海道の基幹産業である農業における外国人技能実習生の受け入れ状況と技能実習生に大きく依存する北海道農業の今後の課題について学ぶ機会となった。外国人技能実習制度は、受け入れ過程で実習生が多額の借金を背負うことや劣悪な労働条件、実習生の失踪などが問題となっているが、そうした技能実習生の擁護をおこなう「宗教施設」の役割についても焦点をあて、カトリック教会の担当者から話を聞くことができた。また、昨年度に引き続き、北海道の国際リゾート地として開発がすすむ「ニセコ地域」の状況について倶知安町観光課の職員を招いたが、今回はリゾート開発の状況と地域の変化に加えて新型コロナウイルス感染症拡大の影響についても学ぶことができた。

現代日本社会における「異文化」に関する学びは、外国人技能実習生を含む1990年以降に増加した外国人労働者などいわゆる「ニューカマー」に焦点が当てられることが多い。しかし、日本社会における「異文化」の問題は、戦前から日本で生活している「在日コリアン」を無視することはできない。そこで今年度は、在日コリアンに関する講義を2コマ設けて担当教員による「在日コリアン」が生まれる歴史的経緯と在日コリアン2世を

招いて体験を聞く機会を設けた。学生からは、これまで「在日コリアン」のことを深く学ぶ機会がなく、「ヘイトスピーチ」や差別の問題についてあまり関心をもっていなかったことをふりかえり、今後学びを深めていきたいといった感想が寄せられている。

また、アイヌ民族に関する授業では、基礎的知識を学ぶとともにマジョリティとマイノリティによる異なる世界観やマイノリティが不可視化される背景について理解を深めることができた。

### 3. 「地域と異文化」の今後の展開について

「HAKODATEコンシェルジュ養成プログラム」が2021年4月入学生より「国際地域イノベーター人材養成プログラム」に発展継承されたことから、地域と異文化はより地域社会における「多文化」状況の理解とそれに関わる地域課題の分析が求められることとなる。そのため「地域と異文化」は、「多文化社会論」として国際地域学科地域協働専攻地域政策グループの専門科目及び国際地域イノベーター人材養成プログラムの共通科目のうち、日本語系支持科目の選択必修に位置づけられる。これまでのような多彩なゲストスピーカーを迎えることができるかは未定だが、担当教員の調査研究の充実により地域社会の実態をリアルに伝えることと、ゲストスピーカーを大学設置地域である函館・道南から招くことなどの工夫をしながら授業の充実を図っている。